



Washington Japanese Language School

(祝) 60 周年 ワシントン日本語学校

2018 年 6 月 23 日発行 第 12 号

ワシントン日本語学校
校長 佐藤 良明

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

【ワシントン日本語学校事務局】

HOT LINE (301)962-7415

TEL (301)962-7410

FAX (301)962-7411



夏休み・家庭学習 のすすめ

現地校は、先週より夏休みに入り日本語学校でも来週をもって1学期13日間（幼・小1年ー12日間）の終業日を迎えます。

平日、サマーキャンプや学習塾、ボランティア活動などで過ごしている人、日本に帰り体験入学をしている人などそれぞれの夏休みを過ごしていると思います。

日本語学校としても、子ども達に安全で有意義な夏休みを過ごしてもらいたいと強く願っています。

本校の児童生徒は、授業時数が少ない中で日本語学習を頑張っています。夏休みは、1学期の学習を振り返り復習を中心に計画的に学習できるように、ご家庭でのご協力をお願いいたします。

ここで「家庭学習のすすめ」について紹介します。

(1) 学習時間の確保

家庭学習の習慣は、生活習慣でもあります。毎日決まった時間に「必ず机に向かう習慣」を身に付けさせましょう。特に、長い夏休み中は「何時から何時まで勉強する」ということを家庭でよく話し合っ、時間を設定してください。

個人によって違いはありますが、子どもの「集中力」が続き、家庭学習としての効果が上がる時間は、学年×10～15分間と言われます。目安は次の通りです。

小学生・低学年（20～30分） 中学年（30～50分） 高学年（50～70分） 中高生（90～180分）
また、一週間の内、テレビを見ない・ゲームをしない日「ノーテレビ・ノーゲームデー」を家庭で決めるなど、家族揃って夏休みの生活計画を立て実行してはいかがでしょうか。

(2) 学習環境の整備

まずは、机の上や周りをきちんと整理整頓させましょう。

「ながら勉強」（テレビを見ながら、おやつを食べながら）は、やめさせましょう。お子さんが落ち着いた環境の中で学習できるように、各家庭で工夫してください。

(3) 見届け・励まし

小学校低学年の時は、おうちの方の支援が、学習習慣や意欲付けに大きく影響します。はじめは、保護者がそばに付き添って見届けてもよいでしょう。正しい姿勢や鉛筆の持ち方にも気をつけましょう。文字を丁寧に書いたり、定規を使って線を引いたりすることも大切です。これは、日本語学校でしつけていることですが、現地校との違いも受け入れながら、なぜ、現地校でやらないことが大切なのか、学習文化の違いを教えながら、強制的でなく教えていくことが効果的です。

中学年・高学年と学年が上がるにつれて、自分で学習することができるように少しずつ手を離していきましょう。そして、中・高生では、自ら考え進んで学習する態度が身につくよう支援してください。

いくつになっても、手を離しても目は離さないようにしてください。子ども達のがんばりに対する励ましの声掛けが、子ども達の学習意欲の向上につながります。



「子どもの学習意欲を高める称賛と温かい励まし」

～ 6年生授業から～



○6月17日の「父の日」を祝い、幼稚部は、16日に父の日のイベントを行いました。子ども達は、朝から父の日のプレゼント作りに一生懸命に取り組みました。習字で『父』という字を書いたり、帽子に色とりどりの手形の模様をつけたりしました。午後、招待されたお父さん達は、魚つり遊びをしたり、プレゼントの帽子をもらったりしました。子どもから「おとうさん ありがとう」の言葉に笑顔あふれるお父さんの顔が印象的でした。



国語科コース別学習小委員会

国語科コース別学習がスタートして4年が経過しました。本年度から6年生まで拡大し、子ども達の国語力の多様化に応じたクラス編成を小学部3年から実施しています。

本小委員会では、実施学年の児童・保護者アンケートを行い、結果を分析して指導に役立てています。

本年度第1回の会議を先週、外部指導者メリーランド大学西尾雅子様、幼児教育に携わる片桐伸子様をお招きし、国語科Aコース担当の先生方、教育人事部の皆さんで行いました。

主な会議内容として

- ・国語科単元テストと全校アンケート結果分析
- ・国語科カリキュラム作成状況
- ・クラス分け結果と現状
- ・先生方の授業の進め方や成果と課題

など、2時間にわたって熱心な話し合いが行われました。



学校施設の事故防止



日本時間6月18日朝7時58分に発生した大阪北部を震源地とする大阪地震（震度6弱）は、5人の尊い命を失い多くの人達が負傷し、帰宅困難者も大勢出るといった事態となりました。

大阪堺に住む私の長男も、通勤途上で急に電車が止まり、大混乱に巻き込まれていると連絡がありました。幸い家族は無事でしたが、地震発生後、次々に被害の状況が報道された中で、大阪高槻市の小学校のプール沿いに設置されたブロック塀が倒れ、登校中だった4年生の女儿が下敷きになり亡くなったというニュースを見て、大変ショックを受けました。

この事故は、違法建築という人災が引き起こしたということで問題になっています。

アメリカ東部では、ほとんど地震が起きないと聞きますが、人災による施設事故は、いつ何時起きるか予想が付きません。借り校舎ではありますが、事前に危険箇所を予測し、点検を行い改善が必要な場合は、SR校と連絡を密に取り、子ども達の学習環境の安全確保に努めて参りたいと思います。